

2026年度 地域経営学部 総合型選抜についての全体講評

1. 出題の意図

1次審査の出願書類では、地域社会の課題や問題等に関するこれまでの取り組み方について、アドミッション・ポリシーに即し、「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」「協働する態度」を評価基準に、自らの思考や判断する力ならびに地域社会の多様なアクターと主体的に協働する力を問いました。

2次審査のプレゼンテーションにおける出題の意図は、現代社会の諸問題をテーマにし、アドミッション・ポリシーに即して、幅広い教養と基礎学力に加え、資料を読み解き、経験や知識と関連付けて問題を設定し、多様な解決のアイデアを考え最も有効な提案にまとめ上げる力を問うとともに、その提案を他者にわかりやすく伝え、説得的なコミュニケーション力を問うことにありました。現代社会の諸問題は広範で、一つの教科・科目には収まらなく、複数の教科・科目が重なり合っただけで多かれ少なかれ関係していると言えます。

2. 採点・評価のポイント

出題は、1次審査の出願書類に加え、2次審査のプレゼンテーションでの大問1題でした。

出願書類

これまでの経験や学習をとおして、自分がどう成長したのかを問う内容でした。したがって、個人あるいはグループ活動として行った内容の記載だけにとどまってははいけません。活動の中で自分が果たした役割、活動をつうじて自分が考えたことや得たことなど、自分なりに成長したと感じることを記載しましょう。各項目で求められている内容をよく確認してください。

紙面は限られています。活動内容については、その概要が分かる程度で問題はなく、詳しく説明する必要はありません。学んで考えたことや身に付けた力を、しっかり書くようにしましょう。高校や協力者も含めた外部から得られた評価・結果のアピールではなく、自分自身がどのように評価しているのかがここでは求められます。やったことではなく、そこから得て身につけたことを書くことが評価のポイントになります。

日頃から、自分自身の成長を意識しながら学習や活動に取り組むと、自己評価をする力も養成されます。

プレゼンテーション

現代社会の諸問題に対して、複数の資料をもとにして、経験や知識を関連付けて問題を設定し、有効な提案にまとめ上げる力を問う内容でした。

プレゼンテーションでは、制作物も評価対象です。問題の背景、問題に対する自分自身の経験や知識、最も有効な提案と判断した理由や根拠が、制作物にも表現されていなければいけません。まとめる際の紙面の枚数は限られていますので、分かりやすく簡潔に表す必要があります。制作物だけをながめたとき、全体で1つのストーリーになっていることが分かるものになっているかどうかを、必ず確認してください。

口頭発表の時間は5分です。制作物に即して、時間を上手く使い、自分自身の主張を口頭で表現する力が求められます。

提案できることは一つではありません。考えられる複数の案から、自分が選択した案が最も適当であると考えられる根拠を示すことが大事です。また、当事者意識をもって問題に向き合っているかどうか、評価のポイントになります。